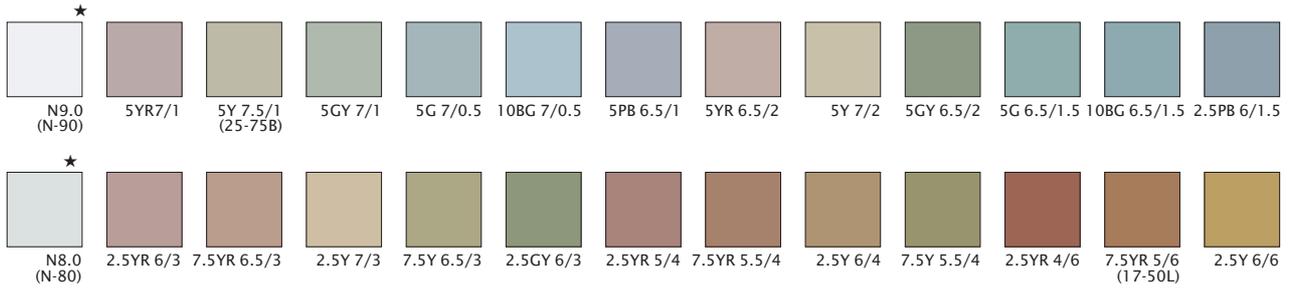


カラーパレット 温泉街

メインカラー



★印：勾配屋根の建築物のみに許容されるメインカラー

サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

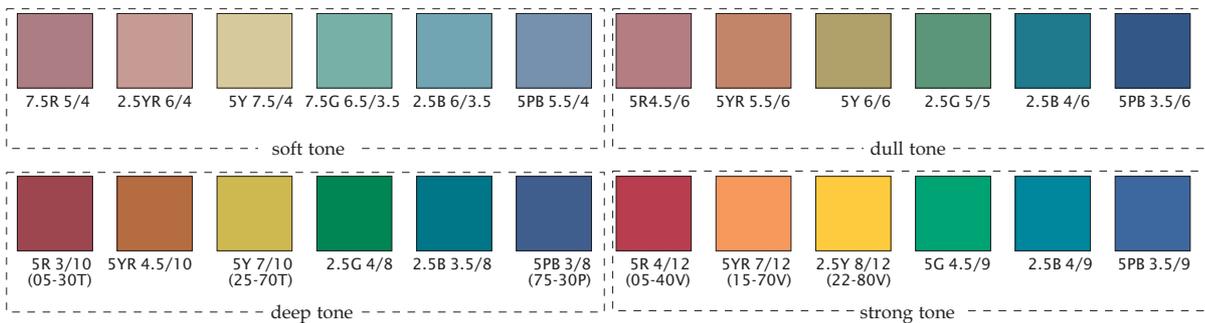


リブカラー



直径400mm以上の柱は☆印の色から選定

アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。

⑮ 一般市街地

色彩的特徴

市街地の色彩的特徴は、大規模の都市型市街地と小規模のまちなみとに分類することができます。

都市型市街地ではさらに用途地域によって、また景観整備地域かどうかによっても、その景観的特徴は異なります。

商業地域では、様々な色が出現し賑わいのある景観であり、住居地域では明るく穏やかな印象です。

また景観整備地域は整然と整備され、特に自然素材色をベースにして穏やかな印象にまとめた地域が多く見られます。

郊外の住居では丘陵を背にした集落も多く、背景の山の色が良好な印象です。

ただし、幹線道路の沿線では、鮮やかな色を使った屋外広告が無秩序に出現し、煩雑な印象を与えるケースも少なくありません。

小規模のまちなみは、周囲を丘陵や田園また山地に囲まれた市街地となります。その多くは、まちなみの中心から背景となる山並みを見ることができます。



商業地域

商業地域



住居地域

整備地区

都市型市街地 色彩選定のポイント

都市型市街地では用途地域の役割にふさわしい景観色彩のあり方が望まれます。

商業地域では、地域の特性を表現した統一感と、人々が集うまちなみとしての賑わい感が求められます。

住居地域では、明るいながらも穏やかな印象となるような配慮が必要です。

工業地域では建設コストの制約から仕上材が制約されることが多く、外観も単調になりがちですから、サブカラーやアクセントカラーを用いて機能的な空間づくりや活気のある雰囲気づくりを目指します。

都市型市街地 メインカラー／サブカラー選定の考え方

〈商業地域〉

賑わいの表現とまちなみとしての統一性を両立させる色使いが望まれます。

周辺と類似したトーンを選定することによって共通性を、色相のバリエーションで賑わいを表現することができます。

サブカラーは低層部の壁面を利用した賑わい演出などに活用します。



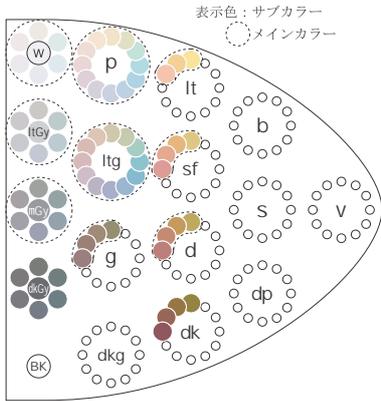
現状



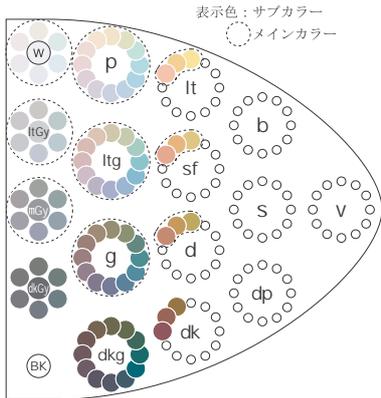
ビル外壁の上部をベージュ、ブラウンなど色相をオレンジ系でまとめたシミュレーション事例



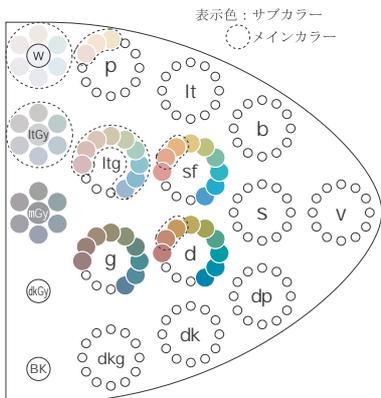
同じくライトグレイッシュトーンでまとめたシミュレーション事例



商業地域〈メインカラー／サブカラー〉



住居地域〈メインカラー／サブカラー〉



工業地域〈メインカラー／サブカラー〉

〈住居地域〉

トーン図の色彩範囲は、過去に住宅メーカーが展示場で発表した戸建住宅の主壁色の中で、出現率の高い色彩です。しかしこの中でも、Y系・YR系以外の色相が出現することは10%を越えることはありませんでした。年代によって出現傾向は異なりますが、いずれも景観性を配慮した色使いであり、住宅街の色彩指針を示す範囲としては妥当だと思われます。

メインカラーそのものの傾向を変えたりサブカラーとの組み合わせを工夫することにより地域特性が生まれてきます。

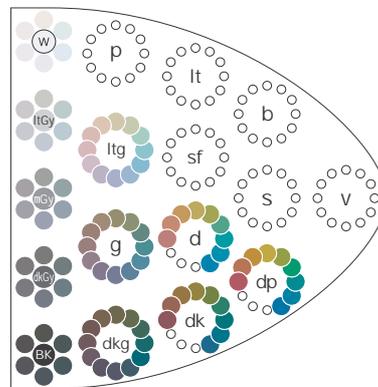
〈工業地域〉

とかく殺風景になりがちですから明るく活気のある外観を創造しましょう。

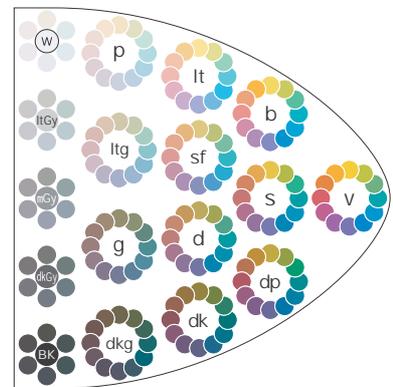
都市型市街地 リブカラー／アクセントカラー

〈商業地域〉

アクセントカラーについては、設定環境や面積比にも考慮し、まとまりを感じさせる全体景観とします。蛍光色は避けましょう。

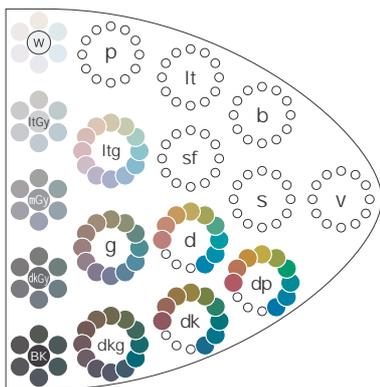


商業地域〈リブカラー〉

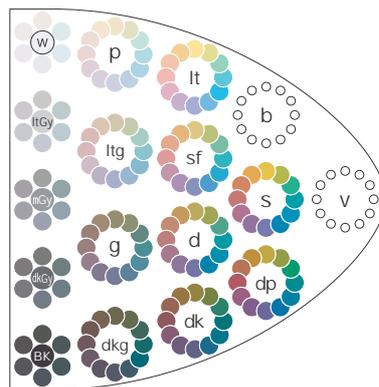


商業地域〈アクセントカラー〉

〈住居地域〉



住居地域〈リブカラー〉



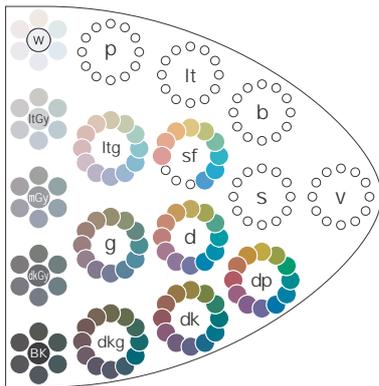
住居地域〈アクセントカラー〉

明るく穏やかな雰囲気求められる地域です。

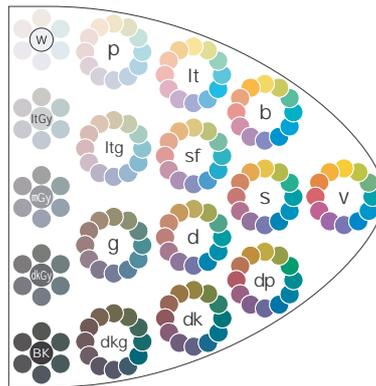
リブカラー、アクセントカラーの使い方によっては、その雰囲気を壊してしまいますから、配慮が必要です。

〈工業地域〉

アクセントカラーを使って、活気のある景観をつくります。



工業地域〈リブカラー〉



工業地域〈アクセントカラー〉

小規模のまちなみ
色彩的特徴

小規模のまちなみは、周囲を丘陵や田園、また山地に囲まれた市街地となります。その多くは、街並みの中心から背景となる山並みを見ることができます。



小規模のまちなみ

小規模のまちなみ
色彩選定のポイント

小規模のまちなみでは、施設の上部などの自然景観に隣接する部位は山並みとの調和を考慮した色彩がよいでしょう。

ただ小規模とはいえ、周囲に点在する集落に住む人々にとっての中心的存在となりますので、店舗や各営業所のある通りの場合、施設の低層部は、活気ある雰囲気演出があってもよいでしょう。



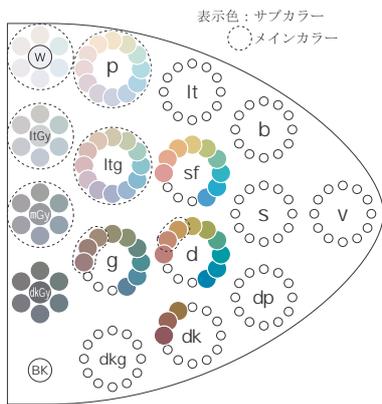
建築物の高さを越えない屋外広告物は遠景の山並み景観をさえぎることがない



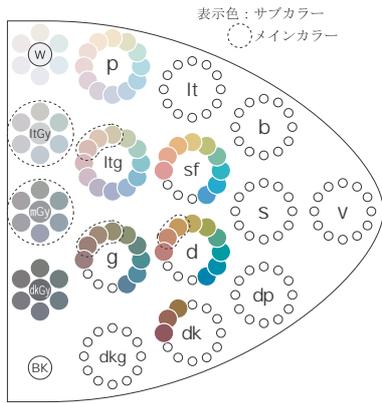
歴史的建造物の多い山間部のまちなみ



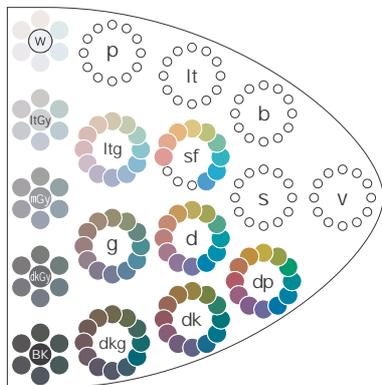
周囲の山並に調和したまちなみ整備地区



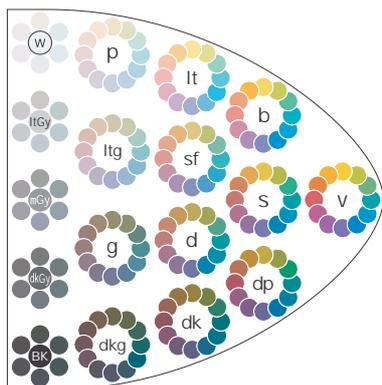
小規模のまちなみ
〈メインカラー／サブカラー〉



小規模のまちなみ
背景が山並みと接する施設
〈メインカラー／サブカラー〉



小規模のまちなみ 〈リブカラー〉



小規模のまちなみ 〈アクセントカラー〉

小規模のまちなみ
メインカラー／サブカラー選定の考え方

自然景観と隣接する建造物については、背景景観と調和するメインカラーにしましょう。



現状



自然景観の特徴に沿って陸屋根壁面を明度8.5から明度7に落としたシミュレーション事例



現状



自然景観の特徴に沿って陸屋根壁面を明度9から明度7に落としたシミュレーション事例

小規模のまちなみ
リブカラー／アクセントカラー

屋外広告物については、設置位置や面積比にも考慮し、まとまりを感じさせる全体景観とします。

小規模のまちなみにおいて、自然景観に隣接するアクセントカラーの使用は避けましょう。

蛍光色は避けましょう。



現状



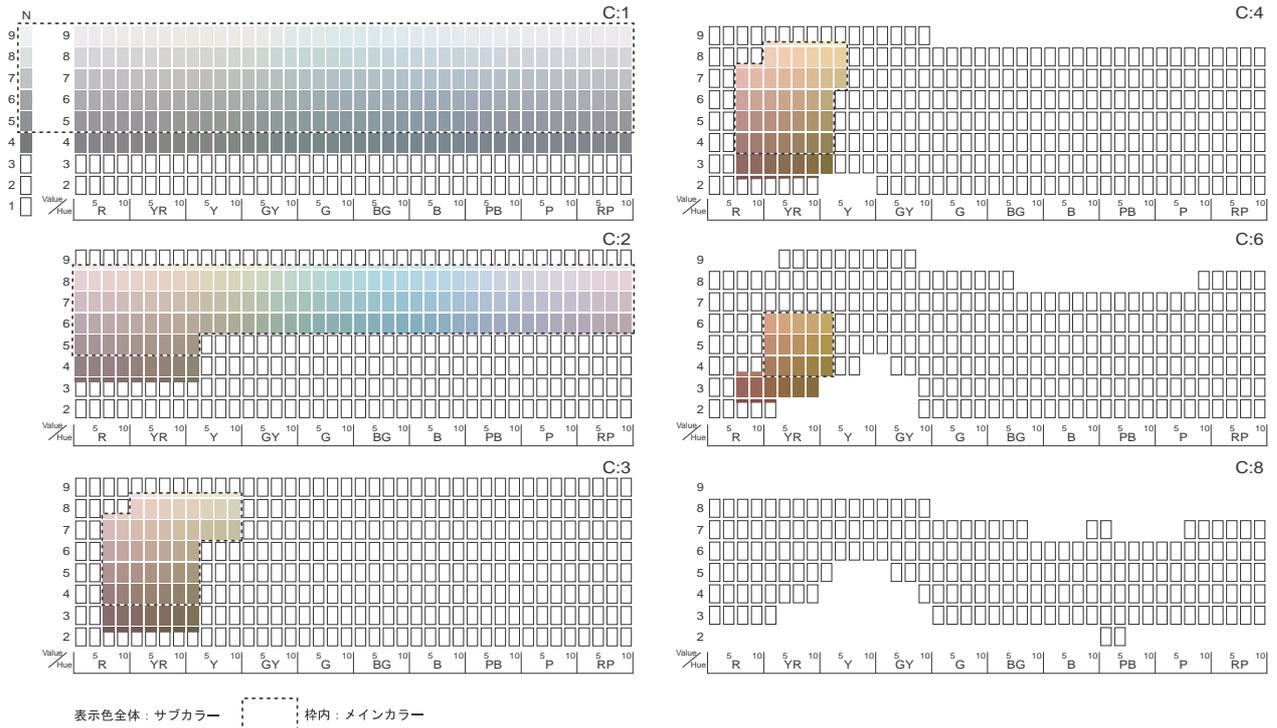
信号柱・電柱をブラウン系に、またサインの明度を落として、景観融和性と可読性を高めたシミュレーション事例



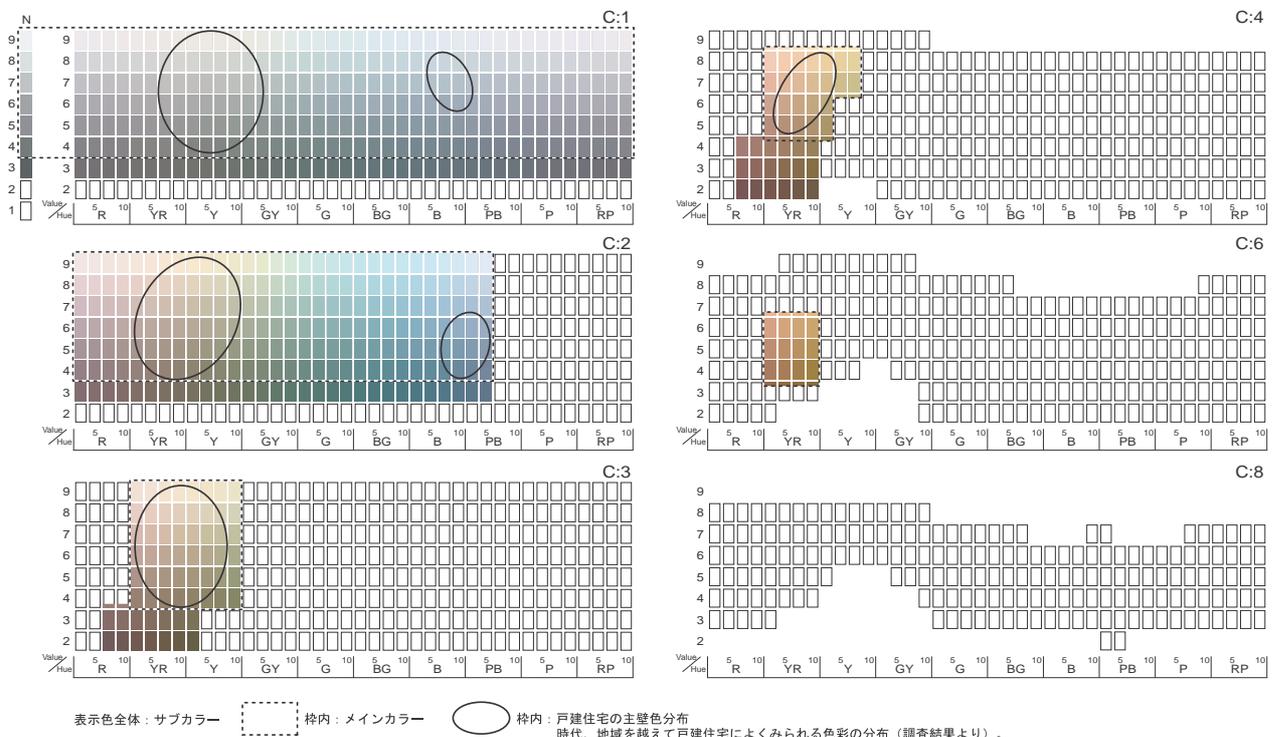
現状



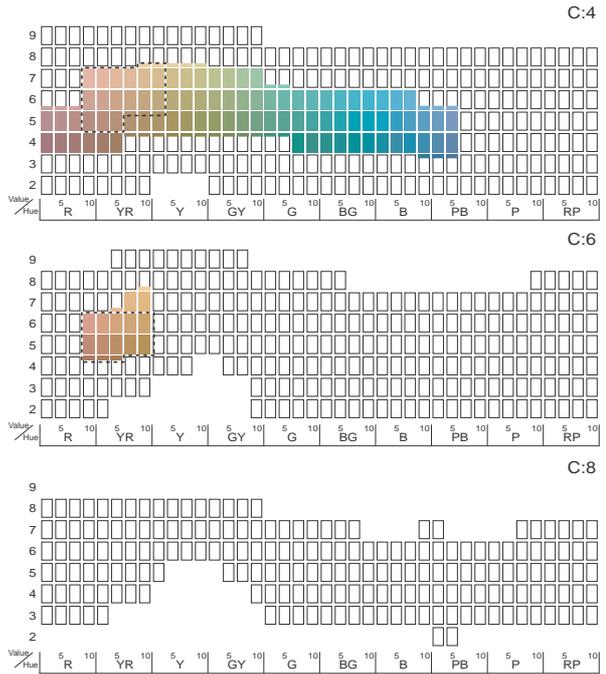
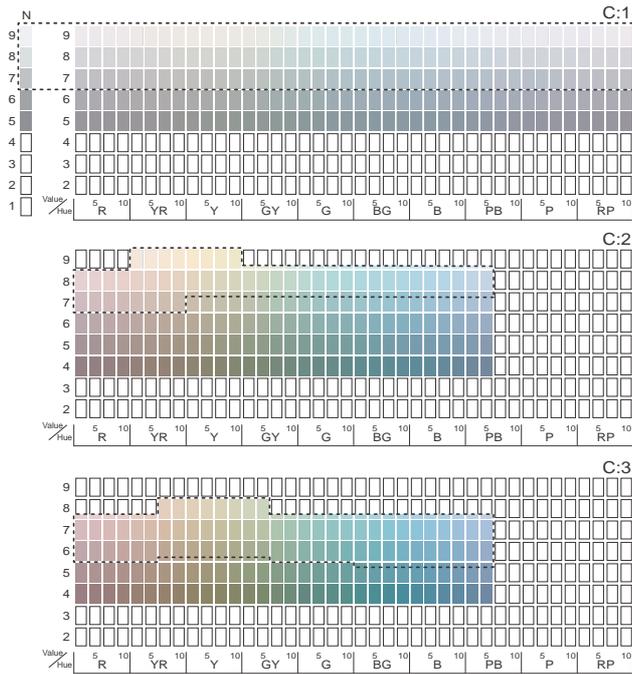
屋外広告物の高さを抑さえ、さらにベースカラー、アクセントカラーの面積比をガイドラインに沿って変えたシミュレーション事例



都市型市街地・商業地域〈メインカラー／サブカラー〉

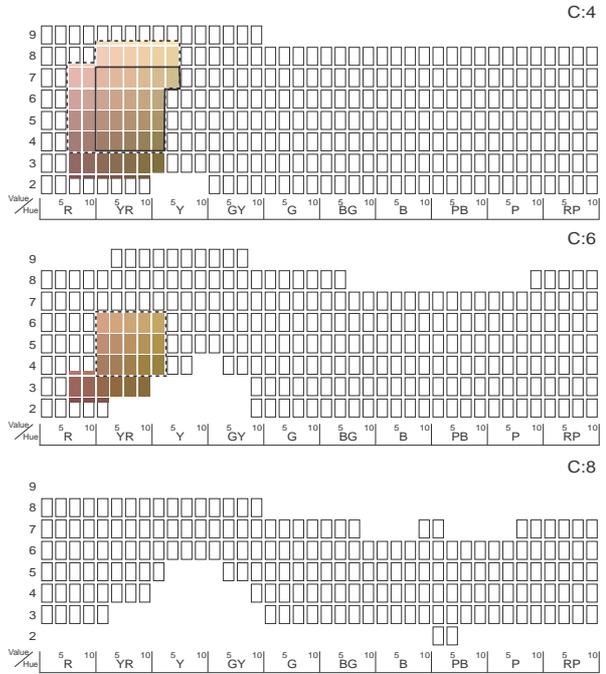
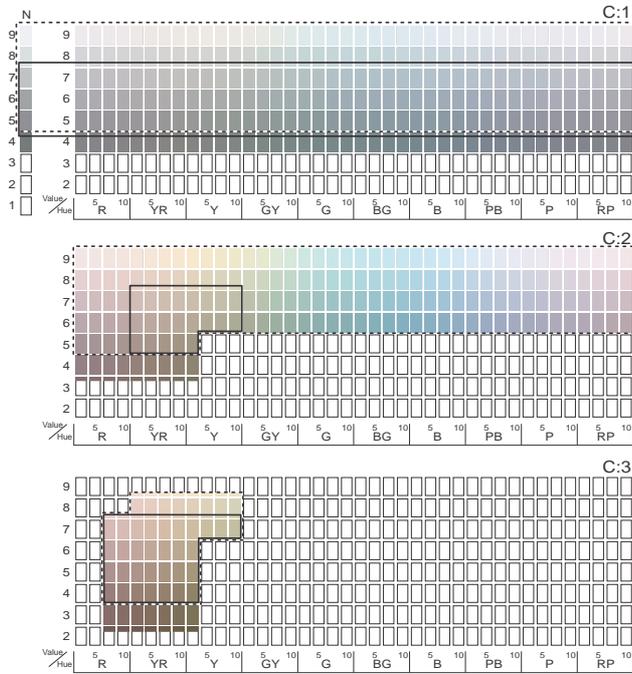


都市型市街地・住居地域〈メインカラー／サブカラー〉



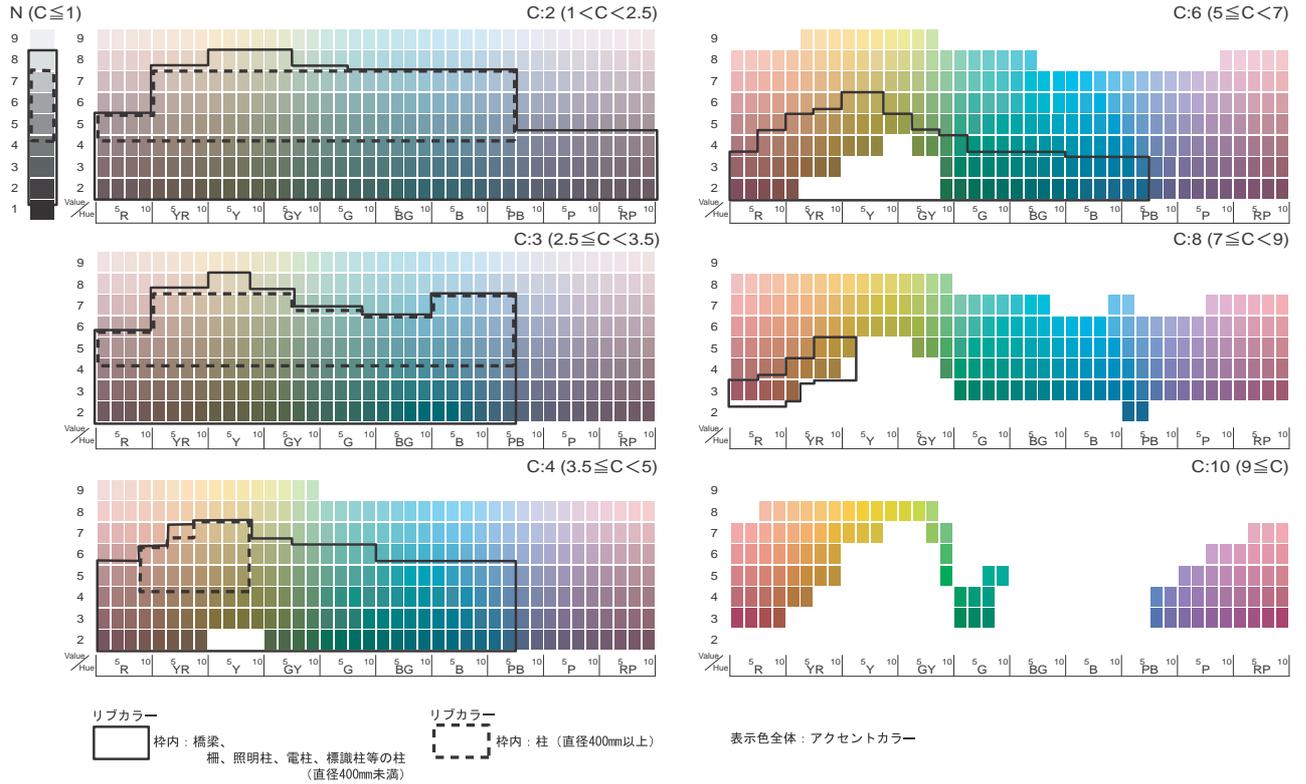
表示色全体：サブカラー 枠内：メインカラー

都市型市街地・工業地域〈メインカラー／サブカラー〉

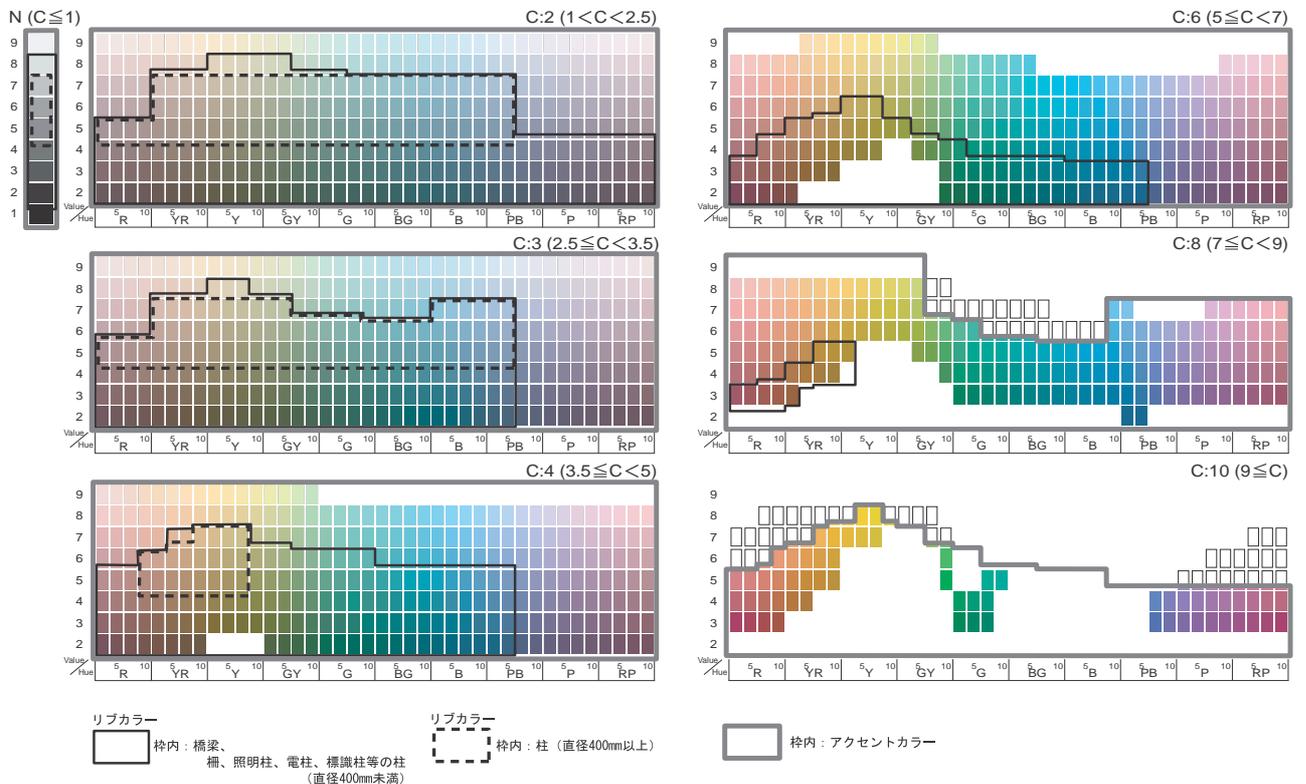


表示色全体：サブカラー 枠内：メインカラー 枠内：背景の山並と接する施設のメインカラー

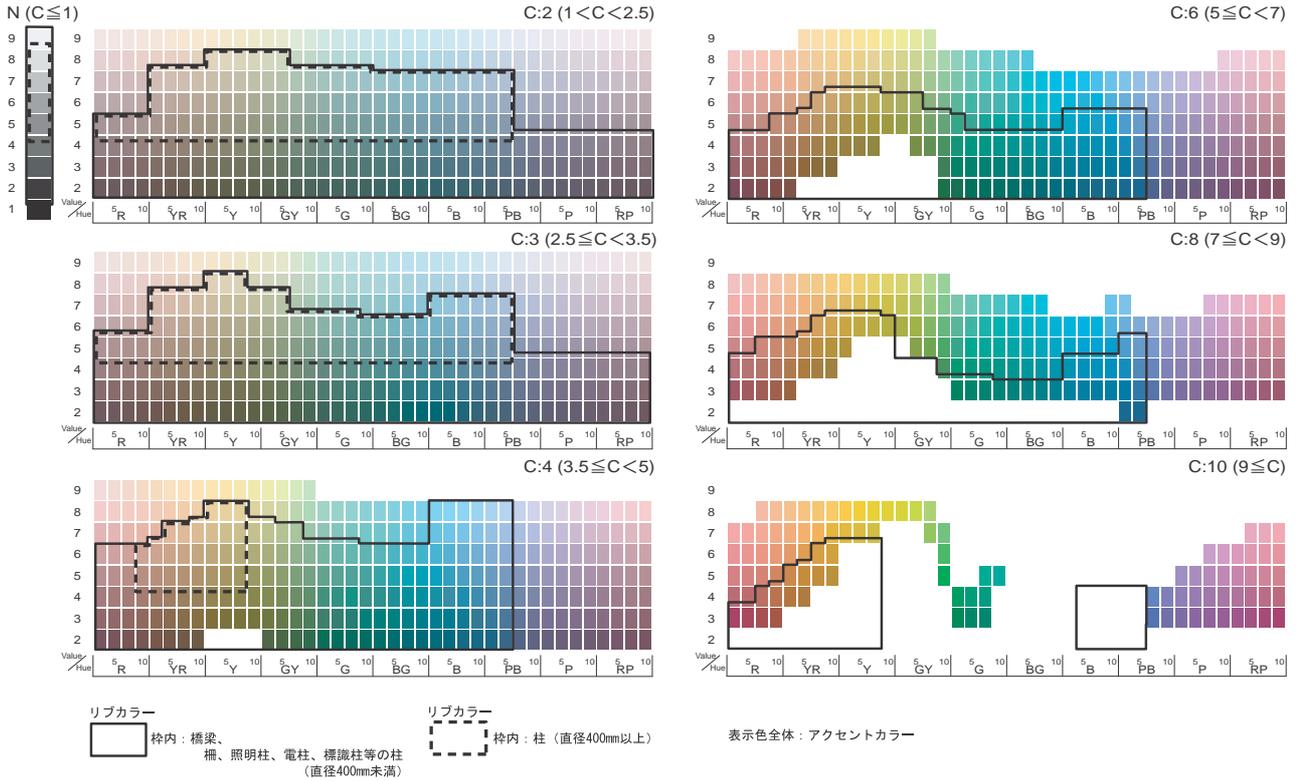
小規模のまちなみ〈メインカラー／サブカラー〉



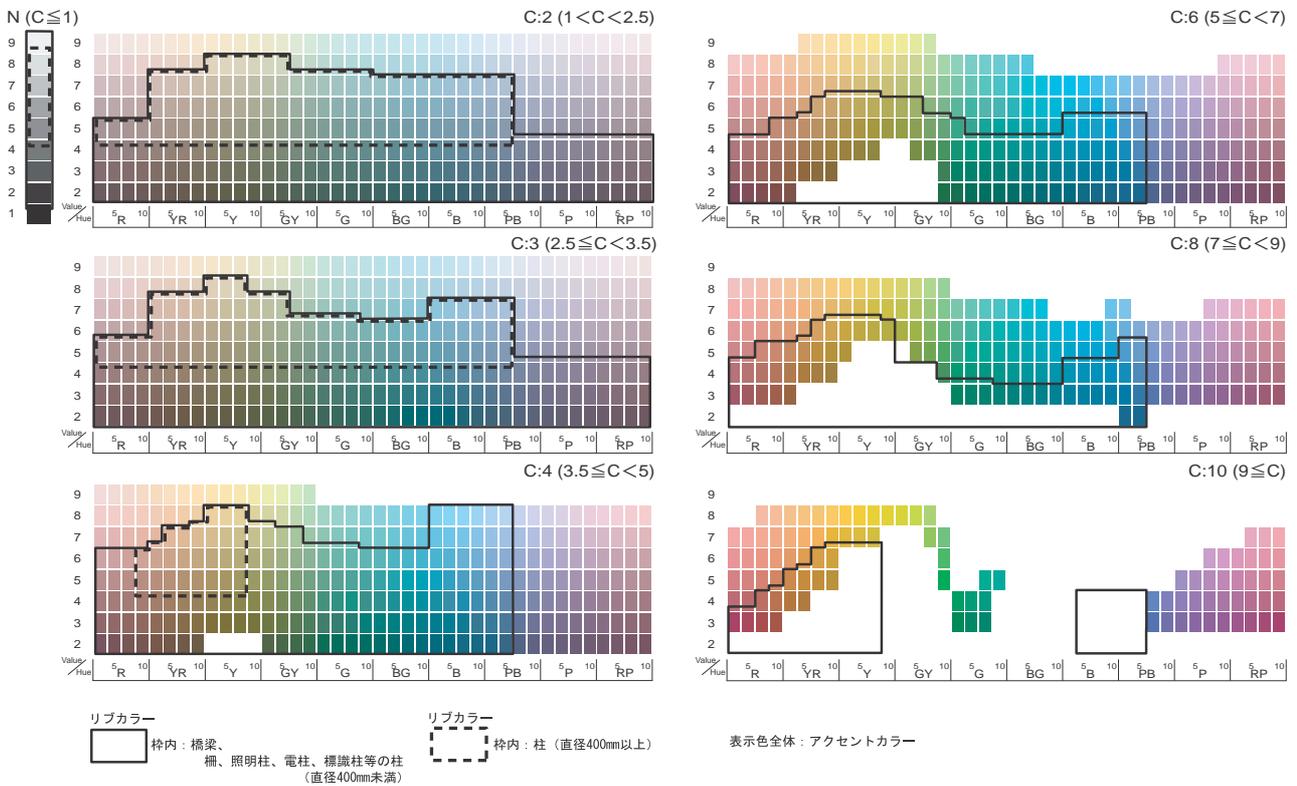
都市型市街地・商業地域〈リブカラー／アクセントカラー〉



都市型市街地・住居地域〈リブカラー／アクセントカラー〉



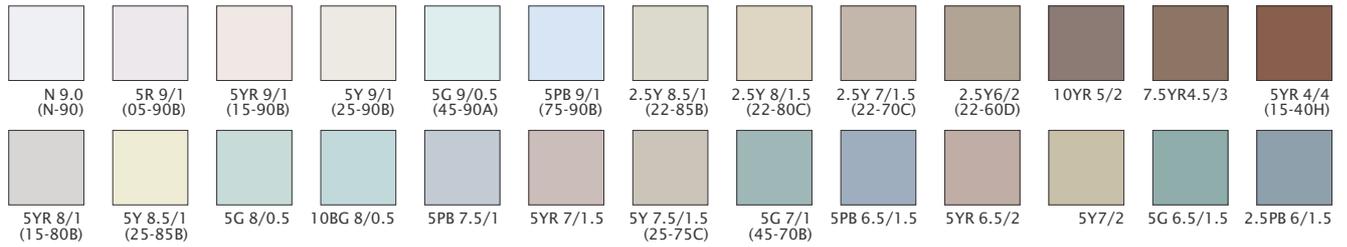
都市型市街地・工業地域〈リブカラー・アクセントカラー〉



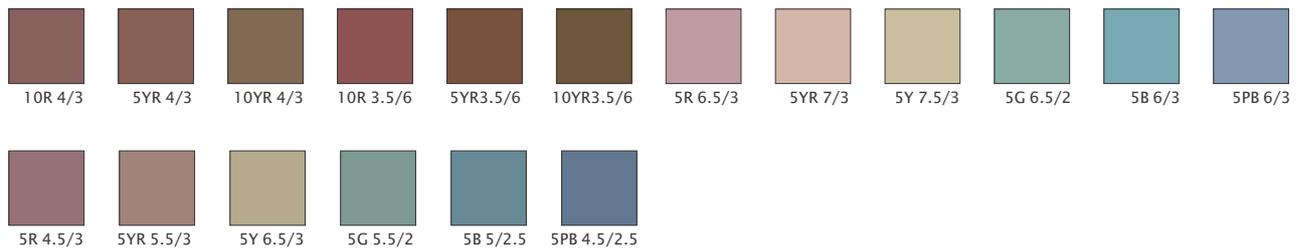
小規模のまちなみ〈リブカラー／アクセントカラー〉

カラーパレット 都市型市街地<商業地域>

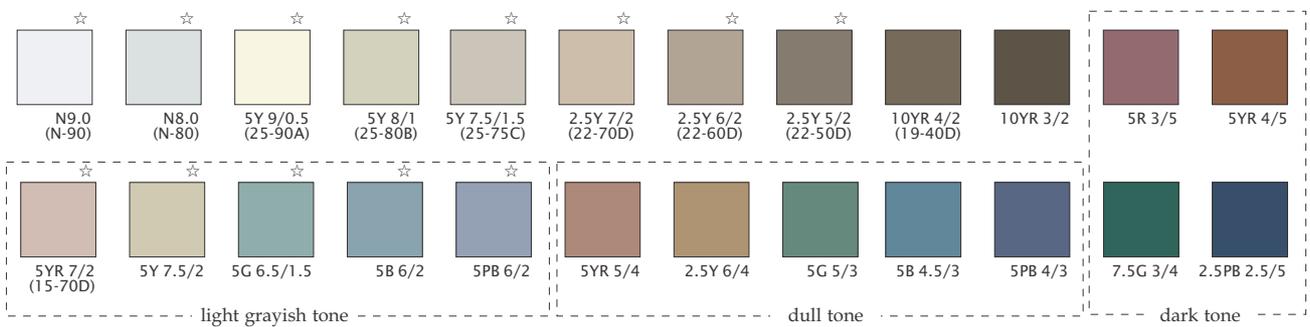
メインカラー



サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

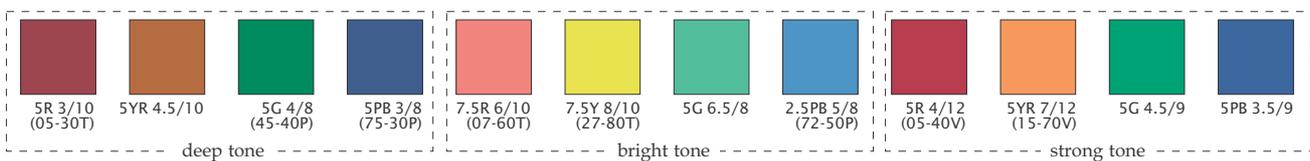


リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)

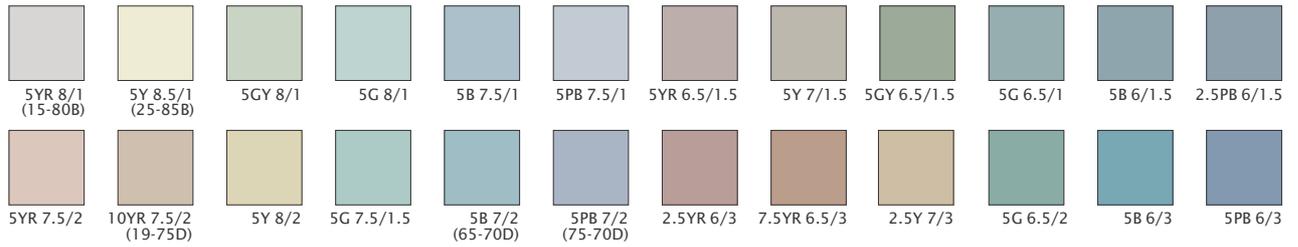


(蛍光色は原則的に禁止です)

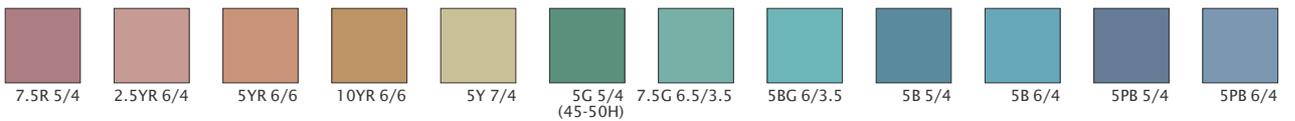
プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。

カラーパレット 都市型市街地<工業地域>

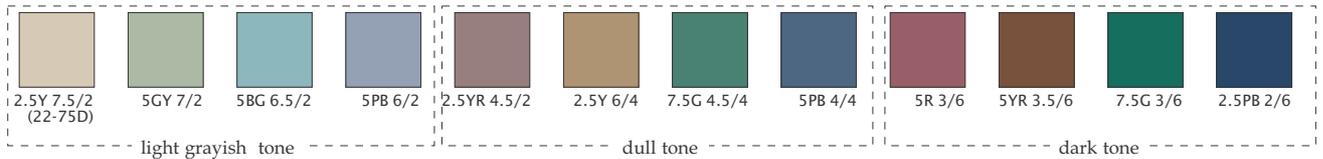
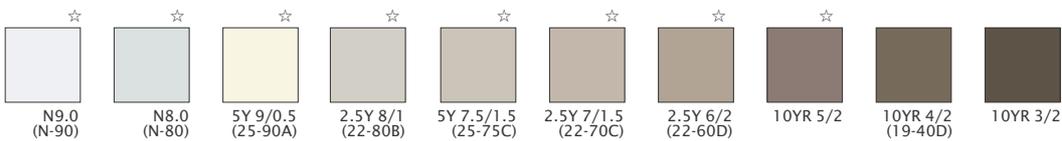
メインカラー



サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

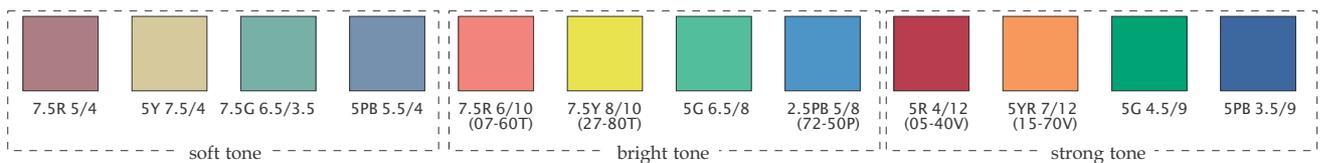


リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

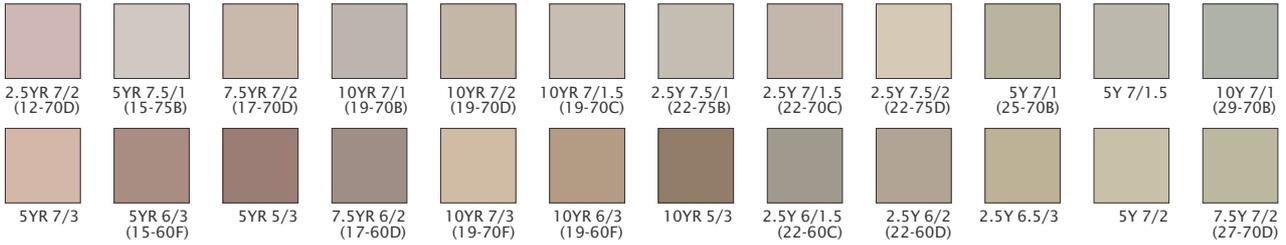
アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)



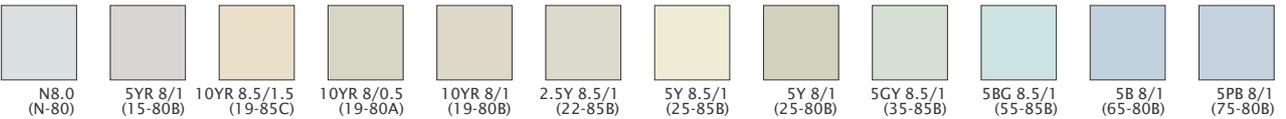
カラーパレット 小規模まちなみ

メインカラー

■背景が山となる施設



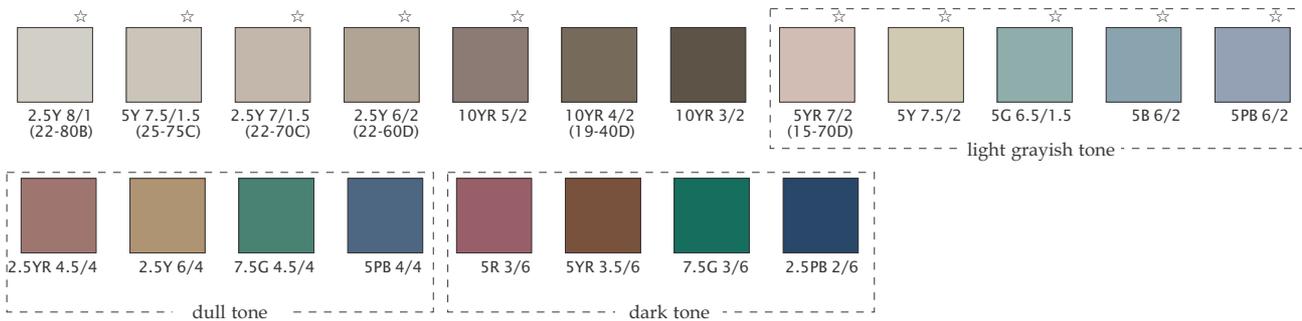
■その他の施設（背景が山となる施設のメインカラーも含む）



サブカラー（メインカラーもサブカラーとして用いることができます）

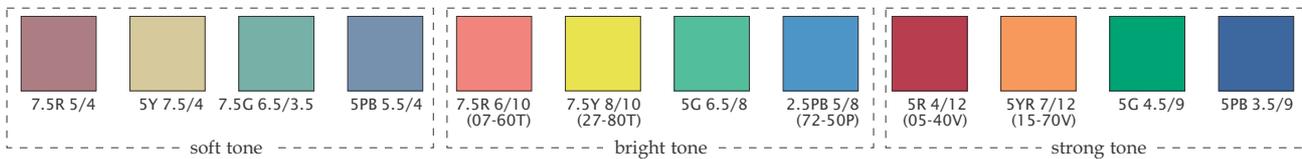


リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

アクセントカラー（メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます）



（蛍光色は原則的に禁止です）